

申21号 地方支社における今後の駅業務及び雇用^{提出!!}のあり方に関する申し入れ(その1)

JR東日本における駅は、街と地域の「顔」としての重要な役割を担っています。そして、JR東日本発足以降積み上げてきた信頼を基礎に、多くのお客様から利用される駅を全組合員の努力によって実現してきました。

一方で、グループ経営構想Vの中で展開されている「水平分業」と「全体最適」という考え方のもとに、急速に進展するグループ会社への業務委託や駅の無人化によって、街と地域の「顔」としての駅は大きな変化の時期を迎えています。

そのような中、11月20日に仙台駅出札の業務委託(2016年4月1日実施)が仙台支社から仙台地本へ提案されました。その前段の9月30日には、仙台駅新幹線南改札の業務委託(2015年12月6日実施)も提案されており、東北地方の玄関口である仙台駅が大規模に委託されることになれば、今後の東北地方における駅のあり方は大きく変化することになります。この事は、駅業務体制の運営の問題だけではなく、雇用やグループ会社の経営にも関わる重大な問題です。将来展望を示すことなく過度な業務委託が進められれば、技術継承や技能伝承に弊害をもたらすだけではなく、JR東日本の未来を切り拓くことは出来ません。

早急に団体交渉をおこないます!!

《 要求項目 》

1. 盛岡、秋田及び仙台支社における今後の駅業務及び雇用のあり方と将来展望を明らかにすること。
2. 盛岡、秋田及び仙台支社における駅業務運営体制(JR直轄駅、業務委託駅、無人駅)の現状を具体的に明らかにすること。
3. JR東日本東北総合サービス(株)に仙台駅出札を委託する目的を明らかにすること。
4. 7月1日のJR東日本グループ事業再編に伴い、盛岡、秋田及び仙台支社の駅業務受託事業を請け負ったJR東日本東北総合サービス(株)の今後の事業展望を明らかにすること。
5. JR東日本東北総合サービス(株)の駅業務受託事業および構内事業の収支状況を明らかにすること。
6. JR東日本東北総合サービス(株)における若年出向者、エルダー出向者およびフロパー社員の比率を明らかにすること。また、今後のフロパー採用計画を明らかにすること。

将来展望を明確に示させ、サービス品質と働いがい向上の実現!雇用の場を守り抜こう!